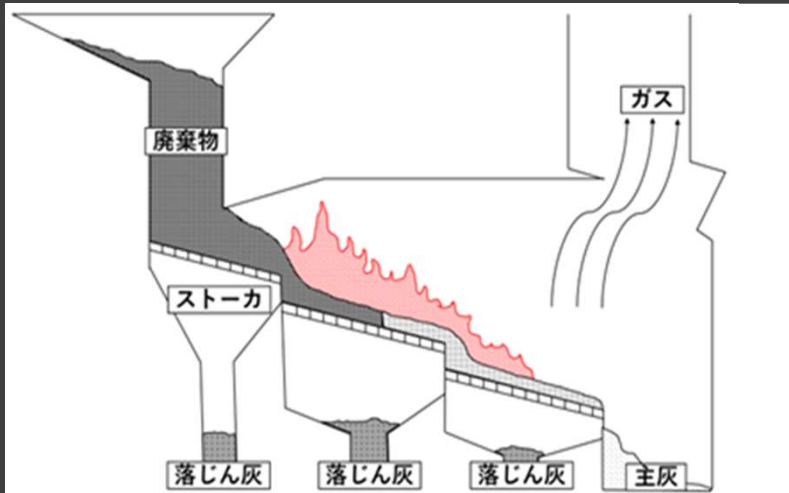


# 一般廃棄物焼却灰からの金属回収のための特性の把握



ストーカ炉概略図



採取した焼却灰の写真

日本（環境省）の調査によると、一般廃棄物の焼却処理量は年間約4200万トン、そのうち約9割は焼却灰として処理される。焼却灰の特性は、微熱（約8割）と、有害物質の含有率が高いことである。また、焼却灰の組成は、焼却物の種類や焼却条件によって大きく異なる。そのため、焼却灰の特性を把握し、適切な処理方法を選択することが重要である。

国内で最も一般的に使用されている焼却炉は、ストーカ炉である。この炉では、焼却物を連続的に供給し、燃焼させる。燃焼後の灰は、落じん灰として回収される。この灰は、再利用可能な成分を含むが、有害物質も含まれている。そのため、焼却灰の処理には、適切な方法を選択することが重要である。

焼却灰の処理には、焼却灰の組成や有害物質の含有率を把握することが重要である。また、焼却灰の処理には、焼却灰の特性を把握し、適切な処理方法を選択することが重要である。焼却灰の処理には、焼却灰の組成や有害物質の含有率を把握することが重要である。また、焼却灰の処理には、焼却灰の特性を把握し、適切な処理方法を選択することが重要である。

以上を踏まえ、焼却灰の特性を把握し、適切な処理方法を選択することが重要である。また、焼却灰の処理には、焼却灰の組成や有害物質の含有率を把握することが重要である。焼却灰の処理には、焼却灰の特性を把握し、適切な処理方法を選択することが重要である。